



平成21年2月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年12月25日

上場会社名 株式会社CFSコーポレーション 上場取引所 東証第一部
 コード番号 8229 URL <http://www.cfs-corp.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)石田 岳彦
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員財務本部長 (氏名)佐藤 信栄 TEL (045)476—7474

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年2月期第3四半期の連結業績(平成20年2月21日～平成20年11月20日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年2月期第3四半期	109,767	1.4	1,081	340.4	1,116	294.0	570	—
20年2月期第3四半期	108,272	1.7	245	—	283	—	△34	—
20年2月期	145,631		1,113		1,067		425	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
21年2月期第3四半期	18	18	—	—
20年2月期第3四半期	△1	16	—	—
20年2月期	14	24	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
21年2月期第3四半期	48,104		19,158		39.8	591	93	
20年2月期第3四半期	50,633		17,109		33.8	572	23	
20年2月期	49,031		17,491		35.7	585	5	

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー		財務活動によるキャッシュ・フロー		現金及び現金同等物期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
21年2月期第3四半期	2,513		△156		△1,098		3,889	
20年2月期第3四半期	2,305		△530		△3,169		2,871	
20年2月期	2,639		△878		△3,395		2,632	

2. 平成21年2月期の連結業績予想(平成20年2月21日～平成21年2月20日) 【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	146,500	0.6	1,700	52.6	1,700	59.3	500	17.5	15	81

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)の有無 : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

ドラッグストア業界および食品スーパー業界は、同業および他業態との競争の激化に加え、世界的な金融危機に端を発する景気後退による消費の低迷が深刻な影を落とし、非常に厳しい状況となっております。このようななかで、当社は中期3ヶ年経営計画のビジョンである「医・薬・食」同源を基本コンセプトとする「トータルヘルスケアのリーディングカンパニー」の実現をめざし、お客様の目線に立った経営の実践をすすめるとともに、お客様に支持される店舗営業の強化を図り、また、昨年来の業績回復基調をより確実なものとする諸施策の徹底を図ってまいりました。

当第3四半期は、低価格志向の強まり等消費行動が大きく変化していくなか、地域特性に応じた品揃えや、お求め易い価格の実現に取り組んだ結果、買上点数および来店客数を伸ばし、売上高については前年同期を上回ることができました。販売費及び一般管理費につきましては、今期の最重要取組課題である構造改革の一環として不採算店の閉鎖等を着実にすすめたことや経費抑制の効果が浸透したことなどから総じて削減することができました。

店舗につきましては、平成20年9月に「ハックドラッグ万福寺店」(川崎市麻生区)を出店し、また、調剤強化策の一環としてドラッグストア店舗内に調剤薬局1店舗を新たに開設しました。一方、不採算店舗3店舗の閉鎖を実施し、これらにより今期累計の出店数は4店舗、閉店数は11店舗となりました。

また、5月に発足したイオン株式会社との業務提携委員会では、同社の経営資源を最大限に活用するための具体的な諸施策として、プライベートブランド商品(トップバリュ)の導入、資材の共同仕入、人財交流等を図り、これらを通じ中長期的な成長基盤の確立と企業価値向上の早期実現に努めてまいります。

これらの結果、当第3四半期の業績は、前年同期に比べ売上高は14億95百万円(1.4%)の増加の1,097億67百万円となりました。営業利益については10億81百万円、経常利益は11億16百万円、四半期純利益は5億70百万円とそれぞれ前年同期に比べ改善いたしました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は前連結会計年度末に比べ9億27百万円減少し481億4百万円となりました。これは現金及び預金が増加したものの、たな卸資産、差入保証金等の投資その他の資産が減少したこと等によるものです。負債につきましては、前連結会計年度末に比べ25億93百万円減少し289億46百万円となりました。この主な要因は借入金が23億30百万円減少したことによるものです。また、純資産につきましては、第三者割当増資や当四半期純利益による増加により前連結会計年度末に比べ16億66百万円増加し191億58百万円となりました。その結果、自己資本比率は39.8%となりました。

・キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ12億57百万円増加し38億89百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は、25億13百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益11億88百万円、減価償却費10億86百万円および仕入債務の増加額9億52百万円等によるものです。

投資活動の結果使用した資金は、1億56百万円となりました。これは、店舗閉鎖等に伴う差入保証金の返還による収入が9億27百万円あるものの、店舗の出店・改装等に伴う固定資産の取得および差入保証金の預入による支出が9億36百万円あったこと等によるものです。

財務活動の結果使用した資金は、10億98百万円となりました。これは主に第三者割当増資による株式発行の収入が14億82百万円および長期借入金による収入が20億円あるものの、長・短期借入金の返済による支出が43億30百万円、配当金の支払いによる支出が2億49百万円あったこと等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当期は、中期3ヶ年経営計画の初年度における構造改革をはじめとする諸課題に着実に取り組み、新たな成長戦略へ向けて業績回復と収益基盤の整備を図ってまいりました。具体的には、引き続き既存店舗の収益回復を最優先の課題とし、調剤併設化への対応を含めた改装を実施していく一方、不採算店舗については閉鎖やリロケーション等の抜本的な施策を打ってきております。新規出店については、平成20年12月に静岡東部の近隣型商業施設(静岡県田方郡函南町)内に「キミサワ函南店」、「ハックドラッグルピア函南店」を同時に開店し、通期ではドラッグストア4店舗、スーパーマーケット2店舗となる見込みであります。

なお、通期の業績につきましては、構造改革の前倒し実行も予定されること等を踏まえ、「平成21年2月期 中間決算短信」の通期の見通しに記載した理由により、期初に発表した業績予想のとおりと見込んでおります。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
該当事項はありません。
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用
税金費用については、法定実効税率をベースとした年間予測率により計算しております。
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更
該当事項はありません。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成20年2月期 第3四半期末)		当四半期末 (平成21年2月期 第3四半期末)		増減 金額	(参 考) 前期末 (平成20年2月期末)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(資産の部)							
I 流動資産							
1. 現金及び預金	2,871		3,889		1,018	2,632	
2. 売掛金	2,232		2,381		148	2,311	
3. たな卸資産	12,754		11,995		△759	12,263	
4. その他	3,928		2,789		△1,139	3,507	
流動資産合計	21,787	43.0	21,055	43.8	△731	20,714	42.2
II 固定資産							
1. 有形固定資産	12,272		11,924		△347	11,991	
2. 無形固定資産	1,127		849		△277	1,045	
3. 投資その他の資産	15,447		14,274		△1,173	15,279	
固定資産合計	28,846	57.0	27,048	56.2	△1,798	28,316	57.8
資産合計	50,633	100.0	48,104	100.0	△2,529	49,031	100.0
(負債の部)							
I 流動負債							
1. 買掛金	13,039		13,229		189	12,276	
2. 短期借入金及び一年内 返済予定長期借入金	4,555		3,455		△1,100	4,855	
3. その他	7,844		6,108		△1,736	6,892	
流動負債合計	25,438	50.2	22,792	47.4	△2,647	24,024	49.0
II 固定負債							
1. 長期借入金	5,015		3,560		△1,455	4,490	
2. 預り保証金	1,703		1,506		△196	1,687	
3. その他	1,368		1,087		△280	1,337	
固定負債合計	8,086	16.0	6,153	12.8	△1,932	7,515	15.3
負債合計	33,524	66.2	28,946	60.2	△4,578	31,539	64.3
(純資産の部)							
I 株主資本							
1. 資本金	5,660		6,401		741	5,660	
2. 資本剰余金	4,945		5,686		741	4,945	
3. 利益剰余金	6,323		7,104		781	6,783	
4. 自己株式	△9		△11		△2	△9	
株主資本合計	16,920	33.4	19,182	39.9	2,261	17,380	35.5
II 評価・換算差額等							
1. その他有価証券評価 差額金	188		△24		△212	111	
評価・換算差額等合計	188	0.4	△24	△0.1	△212	111	0.2
純資産合計	17,109	33.8	19,158	39.8	2,049	17,491	35.7
負債純資産合計	50,633	100.0	48,104	100.0	△2,529	49,031	100.0

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成20年2月期 第3四半期)		当四半期 (平成21年2月期 第3四半期)		増 減 金額	(参 考) 前期 (平成20年2月期)	
	金額	百分比	金額	百分比		金額	百分比
I 売上高	108,272	100.0	109,767	100.0	1,495	145,631	100.0
II 売上原価	77,512	71.6	78,830	71.8	1,318	103,818	71.3
売上総利益	30,759	28.4	30,936	28.2	177	41,812	28.7
III 販売費及び一般管理費	30,514	28.2	29,854	27.2	△659	40,699	27.9
営業利益	245	0.2	1,081	1.0	836	1,113	0.8
IV 営業外収益	215	0.2	183	0.1	△32	277	0.1
V 営業外費用	177	0.1	148	0.1	△29	323	0.2
経常利益	283	0.3	1,116	1.0	833	1,067	0.7
VI 特別利益	21	0.0	175	0.2	154	568	0.4
VII 特別損失	96	0.1	103	0.1	7	641	0.4
税金等調整前 四半期(当期)純利益	208	0.2	1,188	1.1	979	993	0.7
税金費用	243	0.2	617	0.6	374	568	0.4
四半期(当期)純利益	△34	△0.0	570	0.5	604	425	0.3

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区分	前年同四半期 (平成20年2月期第3四半期)	当四半期 (平成21年2月期第3四半期)	(参考)前期 (平成20年2月期)
	金額	金額	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益	208	1,188	993
2. 減価償却費	1,113	1,086	1,508
3. 減損損失	—	—	183
4. 賞与引当金の増加額	684	715	0
5. 退職給付引当金の減少額	△103	△56	△143
6. 売上債権の増加額	△91	△70	△170
7. たな卸資産の増減額(△は増加)	△738	268	△247
8. 仕入債務の増加額	1,012	952	250
9. その他	447	△1,080	519
小計	2,533	3,004	2,895
10. 法人税等の支払額	△145	△439	△148
11. その他	△82	△51	△107
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,305	2,513	2,639
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 固定資産の取得による支出	△928	△869	△1,163
2. 差入保証金の預入による支出	△94	△66	△150
3. 差入保証金の返還による収入	493	927	692
4. 預り保証金の受入による収入	8	43	11
5. 預り保証金の返却による支出	△78	△224	△97
6. その他	68	33	△170
投資活動によるキャッシュ・フロー	△530	△156	△878
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金の純増減額(△は減少)	500	△800	800
2. 長期借入れによる収入	—	2,000	—
3. 長期借入金の返済による支出	△3,430	△3,530	△3,955
4. 株式発行による収入	—	1,482	—
5. 自己株式の売却による収入	0	0	0
6. 自己株式の取得による支出	△0	△1	△1
7. 配当金の支払額	△239	△249	△239
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,169	△1,098	△3,395
IV 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,394	1,257	△1,633
V 現金及び現金同等物の期首残高	4,265	2,632	4,265
VI 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	2,871	3,889	2,632